

太平洋戦争終結に貢献した3人の九州学院OB



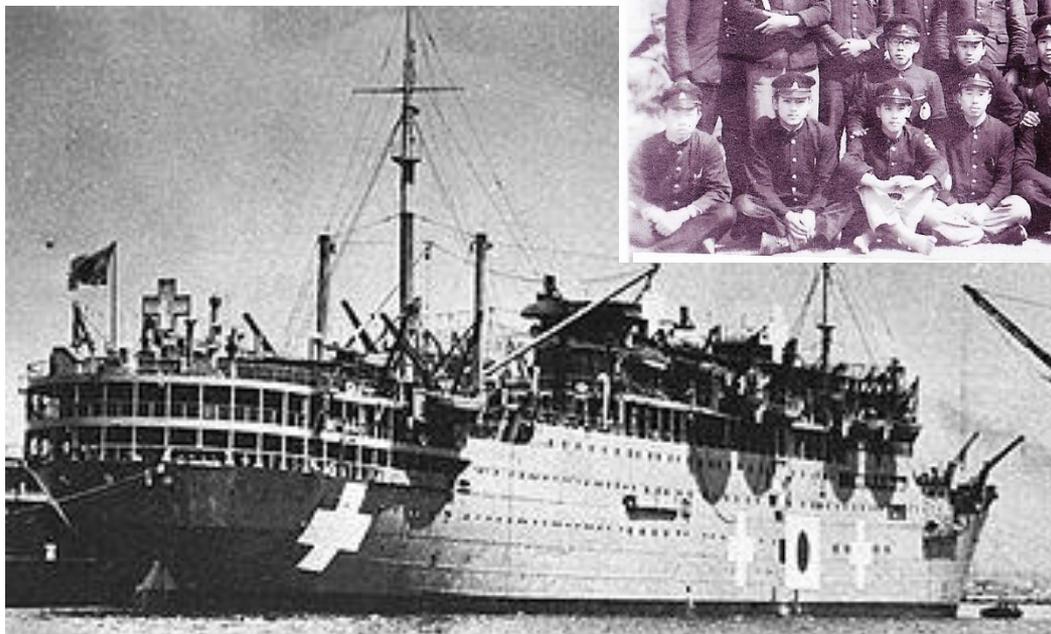
第28回卒・竹宮帝次

第23回卒・トーマス時雄坂本

第22回卒・和田隆太郎(ジミー・ワダ)

降伏文書調印式の事前折衝で重要な働きをした竹宮帝次氏

1939年(昭和14年)
排日運動の高まりにより
武宮家は日本に引き揚げ



1941年(昭和16年)
日米開戦時は九州学院に在学

日系2世(二重国籍)生徒調査報告書

昭和十七年十一月二十九日
 熊本市北警察署署長 殿
 日系第二世(二重国籍)調査
 関係文一件、回報
 熊本市北警察署第六〇八〇号上井井井公附御照
 会書、去我既標題ノ件、別紙ノ通り通リ
 及回報付也

九州學院

記

昭和十八年八月廿一日
 熊本縣内政部
 在外邦人子弟
 一關スル件
 教第一八六七號本月
 相成候標題ノ件、以
 又提出候也

在外邦人子弟生活調査書
 九州中 熊子 校
 (九州 熊子 茂)
 熊本市大江町九品寺
 父 熊本市大江町九品寺
 兄 熊本市大江町九品寺
 原籍 熊本縣 熊本市 大江町 九品寺
 現住 熊本縣 熊本市 大江町 九品寺
 職業 無職
 教育 無職



チャペル横の図書館内
日本語学習はここで

九州学院行軍訓練

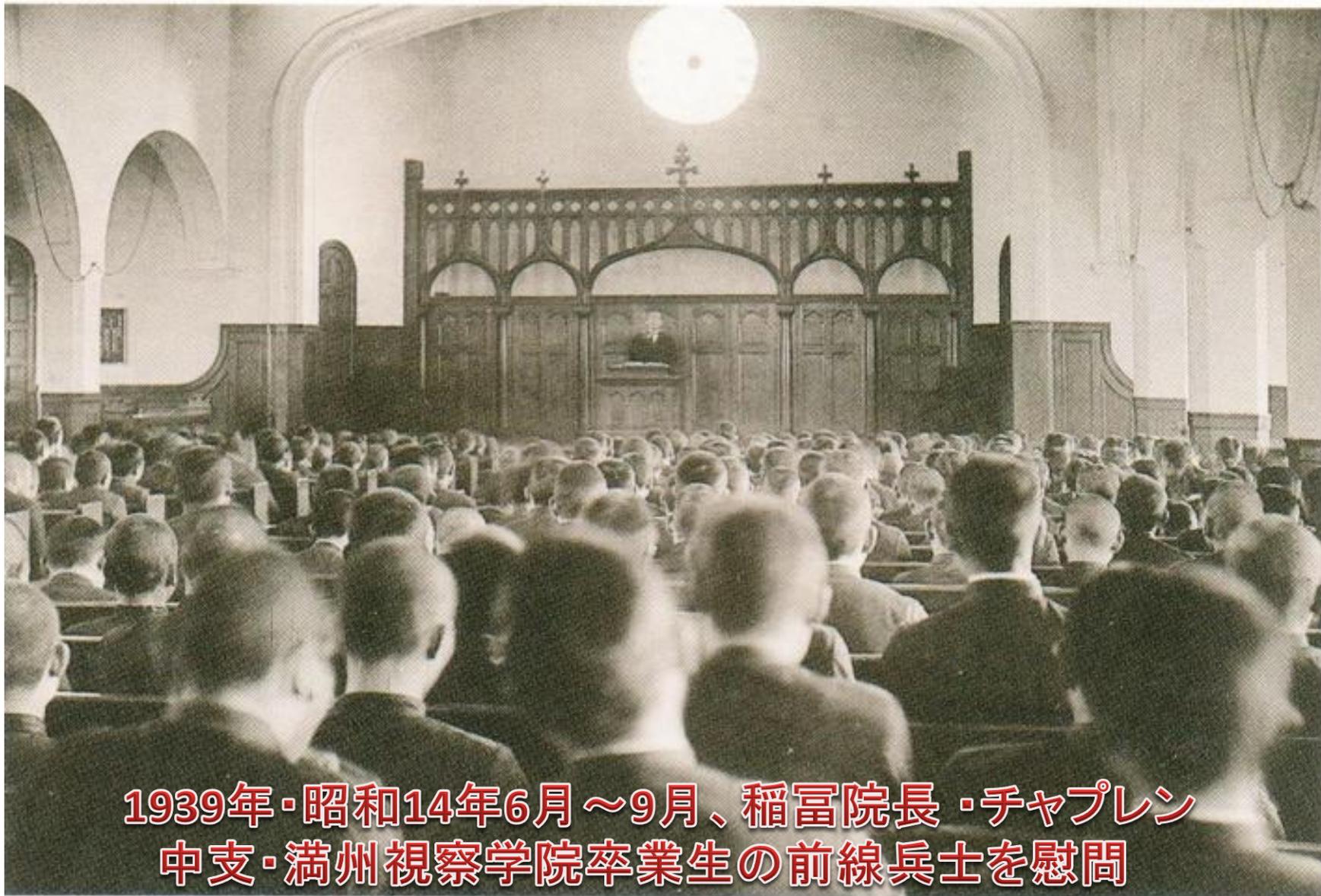


1939年・昭和14年9月1日
ドイツ軍ポーランド進攻
第2次世界大戦勃発

2月3日「九州学院耐寒夜間行軍」開催。全学院生750人が参加

国民精神作興強調週間「銃後ノ国民」朝礼説教

5



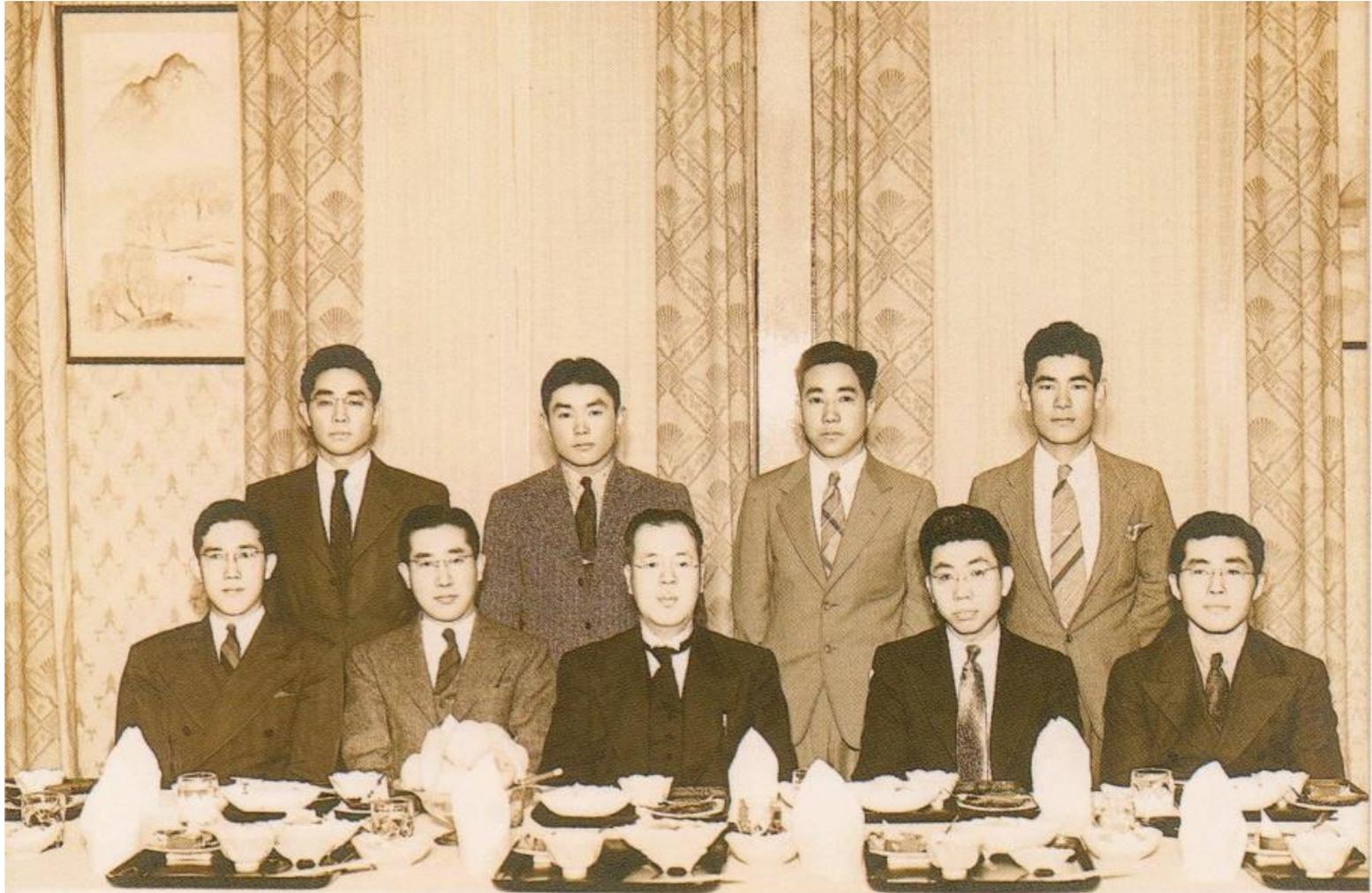
1939年・昭和14年6月～9月、稲富院長・チャプレン
中支・満州視察学院卒業生の前線兵士を慰問

軍事教練と配属将校



1925年・大正14年4月、「陸軍現役将校学校配属令」制定・公布
1940年・昭和15年3月10日、紀元2600年陸軍記念日
熊本第6師団、日露戦争奉天会戦の模擬戦を花岡山で開催

1940年(昭和15年)時局講演のため訪米 カリフォルニア在住の卒業生との会合



稲富院長はルーテル教会の要請を受けて、日米関係改善のため渡米

九州女学院長エカードと九州学院ミラー主事



1940年・昭和15年9月27日「日独伊三国同盟」調印

11月「外国人教員に関する調査」実施

1941年・昭和16年、九州女学院長エカード、
慈愛園長パウラス、九州学院ミラー主事夫妻、

シリンガー宣教師、相次いで帰米

1941年(昭和16年)11月1日 創立30周年記念式典

9



1941年・昭和16年12月8日
ハワイ真珠湾攻撃、太平洋戦争へ突入

勤勞報国の開墾奉仕



1942年・昭和17年1月、教職員・生徒1,000名

菊池神社往復15里・行程60キロの行軍実施

4月より毎月、防空訓練を実施

11月、稲富院長、熊本市文化報国会の生活文化局長就任

翌年、大政翼賛会県支部常務委員・県文化委員会幹事長就任



1943年・昭和18年4月 九州學院 から 九州中學校 へ



1943年・昭和18年4月1日「中等学校令」改正施行
修業年限を4年に短縮

1944年(昭和19年)4月 県翼賛壮年団長 として十字架を負った 第2代院長 稲富肇



帽子の校章も「九学」に



1943年・昭和18年9月、熊本市男女中等学徒
延べ15300人が飛行場整備作業に動員

1944年・昭和19年2月、県下中等学校生徒軍航空志願者
合宿滑空訓練が帯山練兵場で開始

1944年(昭和19年)全校生徒が勤労作業動員



鹿屋海軍航空隊基地本部

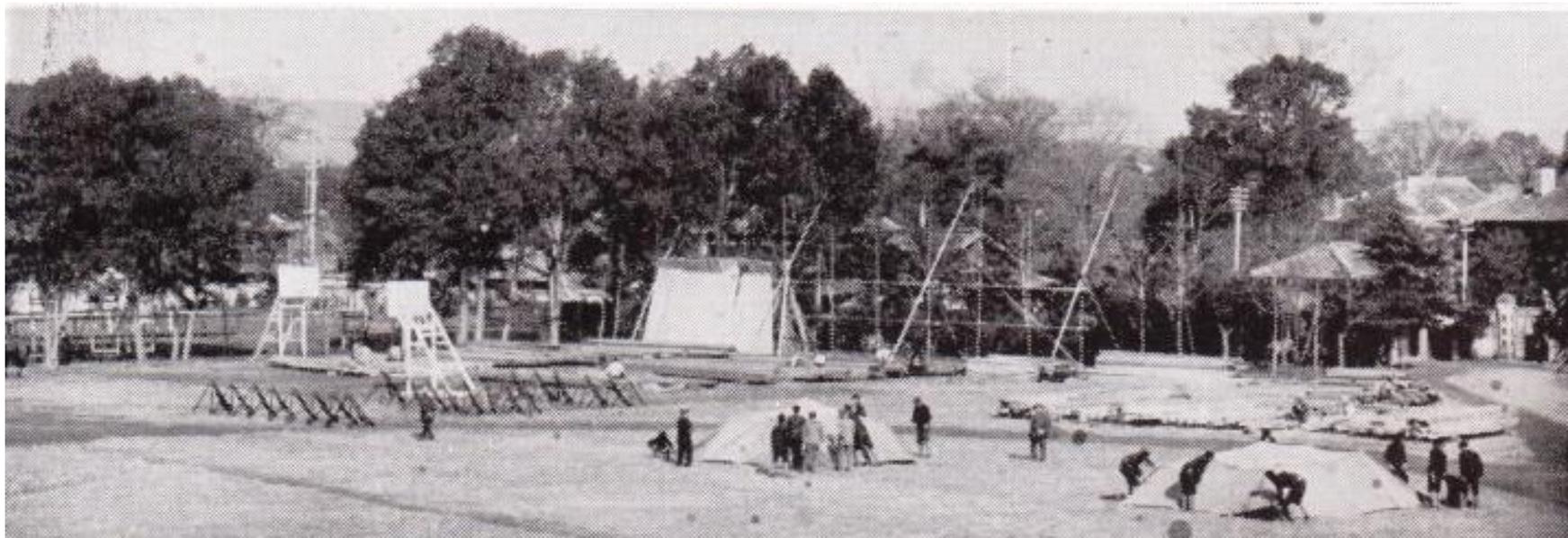


戦時下の軍事訓練

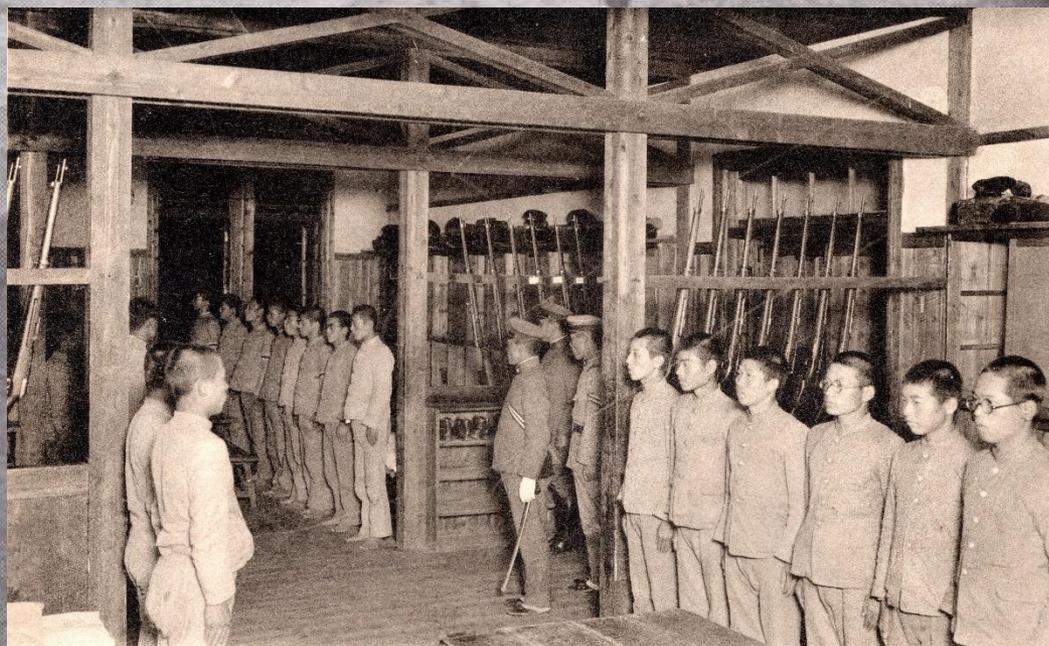
1944年・昭和19年9月
第2回学徒動員令
健軍・三菱航空機工場動員
米軍焼夷弾に対する
防空態勢強化



戦時下に行われていた教練



・1945年・昭和20年3月
学校の兵器工場化に着手
5年生(第30回卒・169名)
4年生(第31回卒・227名)
同時卒業
4月1日、九州中学校に
実務科を設置



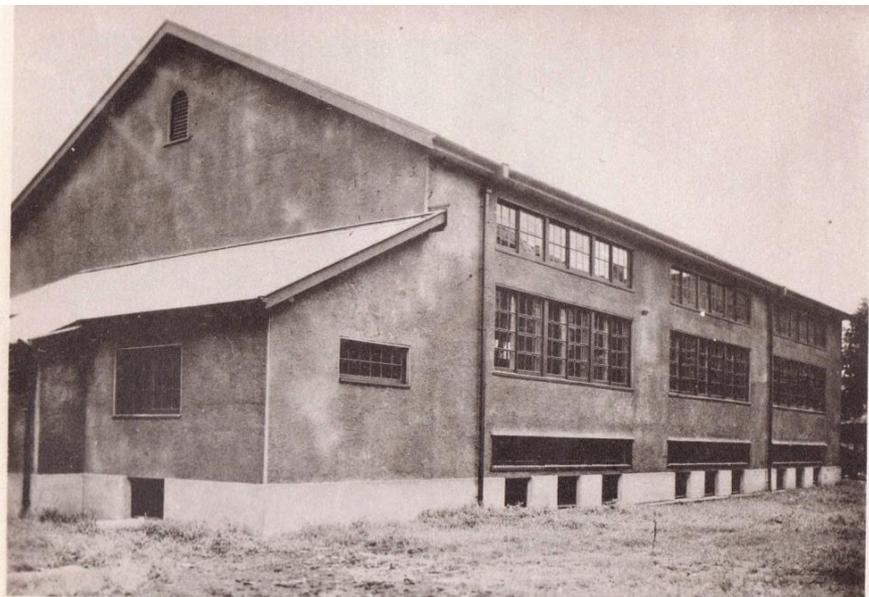
戦時下の野外朝礼・東方遙拝

1945年・昭和20年3月18-19日 米軍艦載機が空襲
健軍の三菱航空機工場が爆撃 学院体育館にも工場疎開



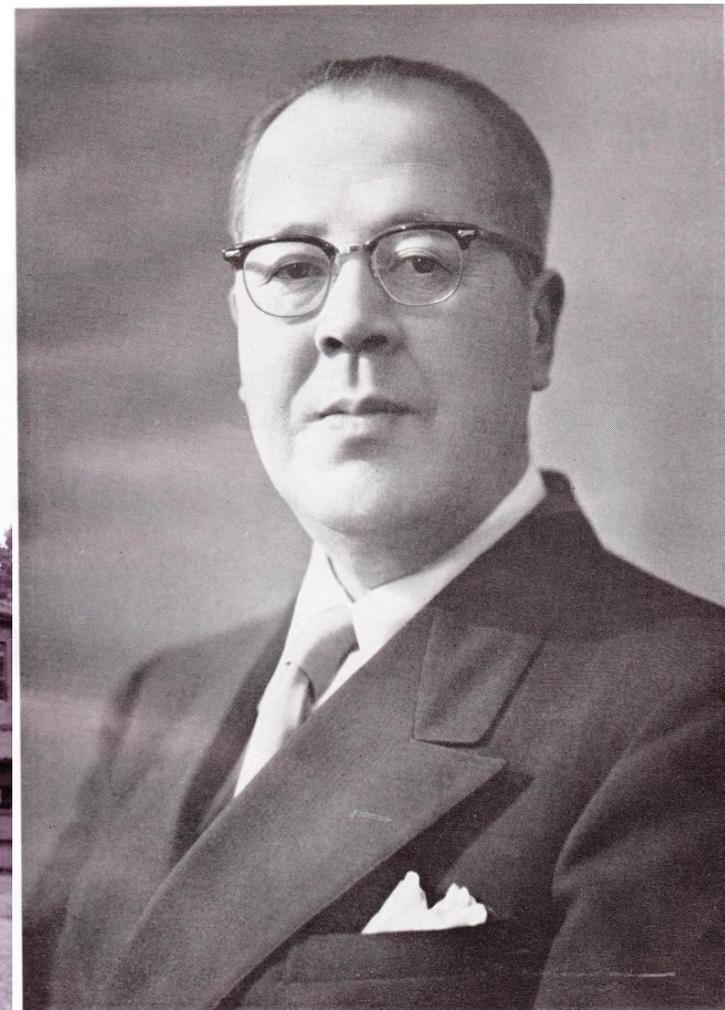
連日空襲警報で授業中止

1945年（昭和20年）7月1日の空襲
第73爆撃飛行団B29・150機
マリアナ基地から飛来
ブラウン講堂東南の旧屋内体操場に
焼夷弾が落下



稲富院長は寄宿舎にいた生徒たちと
消火・防火作業に当たり延焼を防いだ

戦火を免れた九州学院本館と第2代 稲富院長



九州学院の周辺は大空襲で家屋が焼失

1945年(昭和20年)8月10日熊本市第2次大空襲 西方(右側)から攻撃機が東方(左側)へ向け機銃掃射



学院東側にあった騎兵隊・第13連隊の兵舎を狙った米軍機の機銃弾が
本館の学院長杯を貫通 生徒1名が亡くなり、1名が重傷を負った

戦後(1950年)の九州学院周辺 学院の南部は焼失跡が広がっている



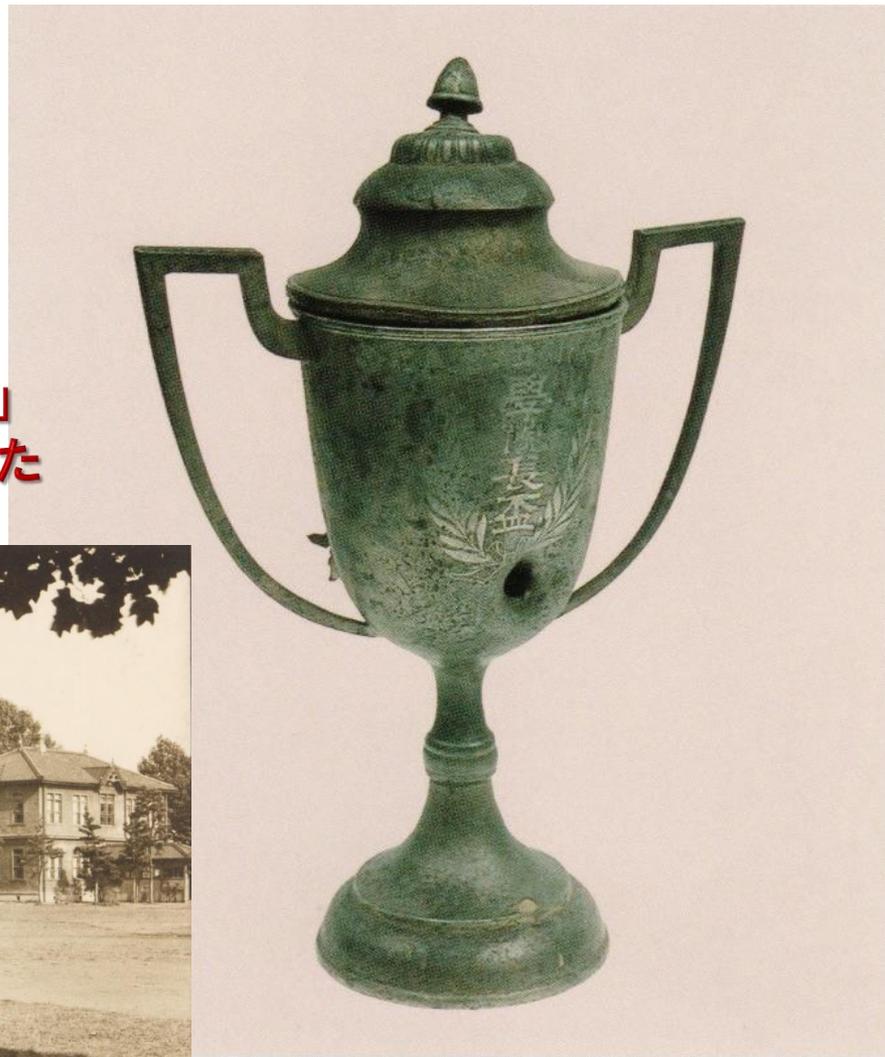
玉音放送に聴き入る国民

1945年・昭和20年8月15日、昭和天皇の「戦争終結詔書」玉音放送により終戦

1945年(昭和20年)8月15日終戦 痛々しい学院長杯

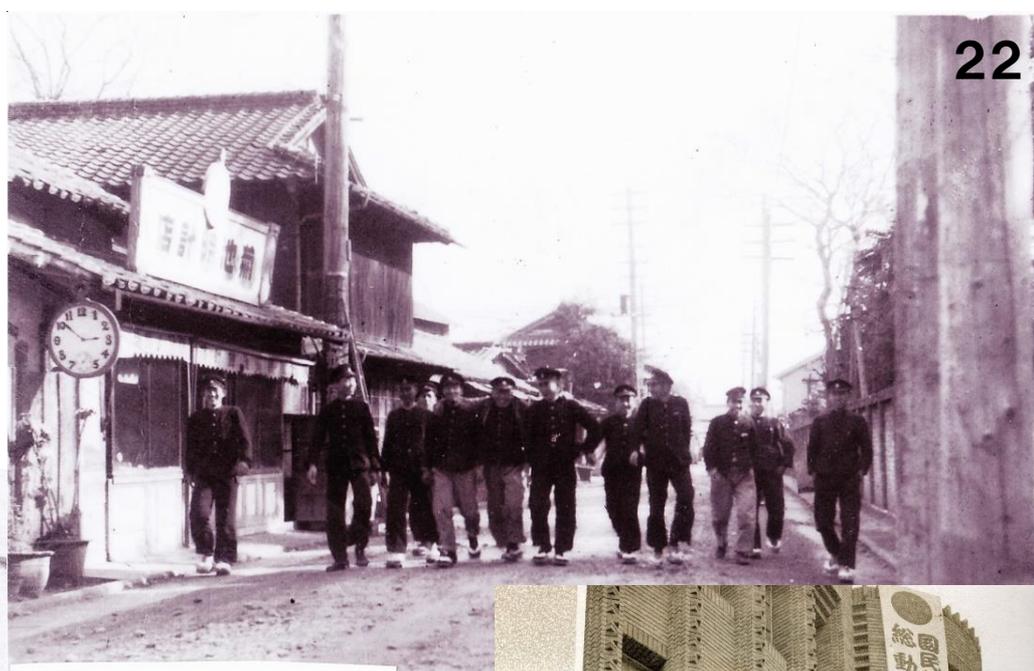


第2代稲富院長は
「自らに負わせられる十字架」
を負い、九州学院を守り導いた



昭和18年 騎兵隊通り(九学通り) 味噌天神入口と学院生

7月1日、空襲により寄宿舍にいた
生徒は校庭の防空壕に退避



昭和18年秋 味噌天神入口



1945年8月27日
戦艦ミズーリ号士官室での事前折衝の様子



無条件降伏文書調印へ向け通訳として尽力

1945年9月2日

戦艦ミズーリ号艦上での降伏文書調印式



「横須賀鎮守府および海軍航空基地の明け渡しに関する文書」
「横須賀占領軍司令官オスカー・バッジャー少将名による
武装解除、海岸防備、宿舎、衛生などに関する指示書」手渡し

降伏文書に署名する日本側全権 重光葵外務大臣



**横須賀米海軍基地司令官オスカー・バッジヤール少将は
武宮帝次を通訳に指名**

米海軍横須賀基地鎮守府 竹宮帝次氏はここで民事部長を務めた



TAKEMIYAは 米軍の「大事な宝」と呼ばれた

米軍横須賀基地池子住宅内のクラブ・たけみや



クラブ・たけみや <米軍横須賀基地池子住宅内>

武宮氏は2010年、86歳で召天

1945年8月30日
厚木飛行場に降り立ったマッカーサー元帥

国際新聞の付属将校・通訳:トーマス時雄坂本



調印された降伏文書

トーマス時雄坂本は降伏文書の草案の検分を担当



**SAKAMOTO : マッカーサー司令部付
エリート情報士官**

坂本時雄氏は1938年・昭和13年3月卒業



父親は上益城郡矢部町出身
熊本市九品寺の柴垣正弘先生宅に預けられた

九州学院の剣道練習

坂本トキオ氏はここで育てられた



柴垣正弘先生：剣道八段範士
「九州学院敬愛会」初代会長(大正13年創設)

トーマス時雄坂本氏は九州学院卒業後カリフォルニアへ



1941年・昭和16年2月 徴兵制にかかり米国陸軍に入隊

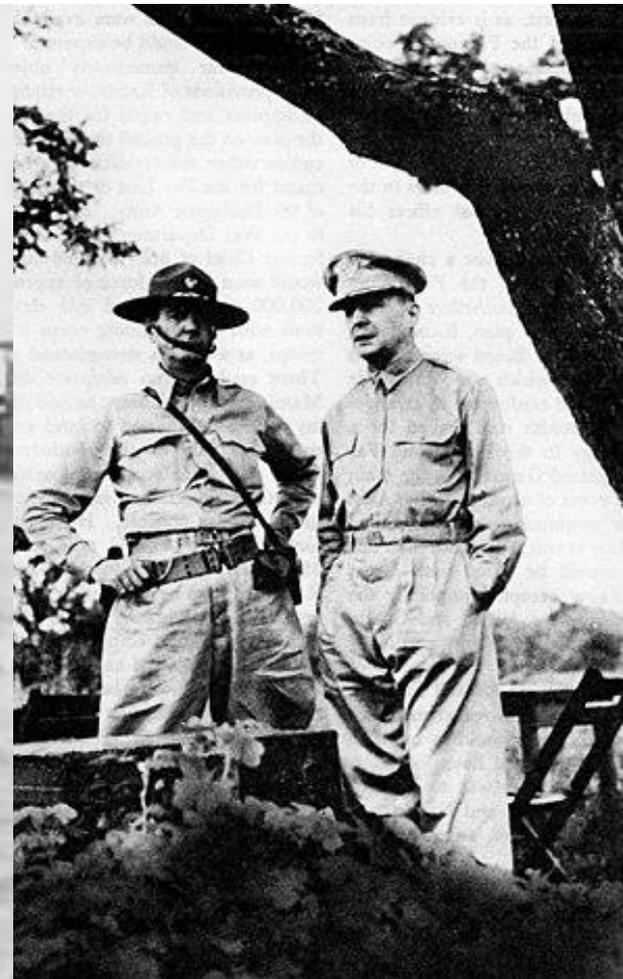
坂本氏の家族はアーカンソー州の強制収容所に収容

SAKAMOTOは陸軍情報部日本語学校の教官を務めた



真珠湾攻撃

トーマス時雄坂本氏は「マッカーサーの耳」となって尽力
マッカーサー司令部・連合軍翻訳通信部に所属



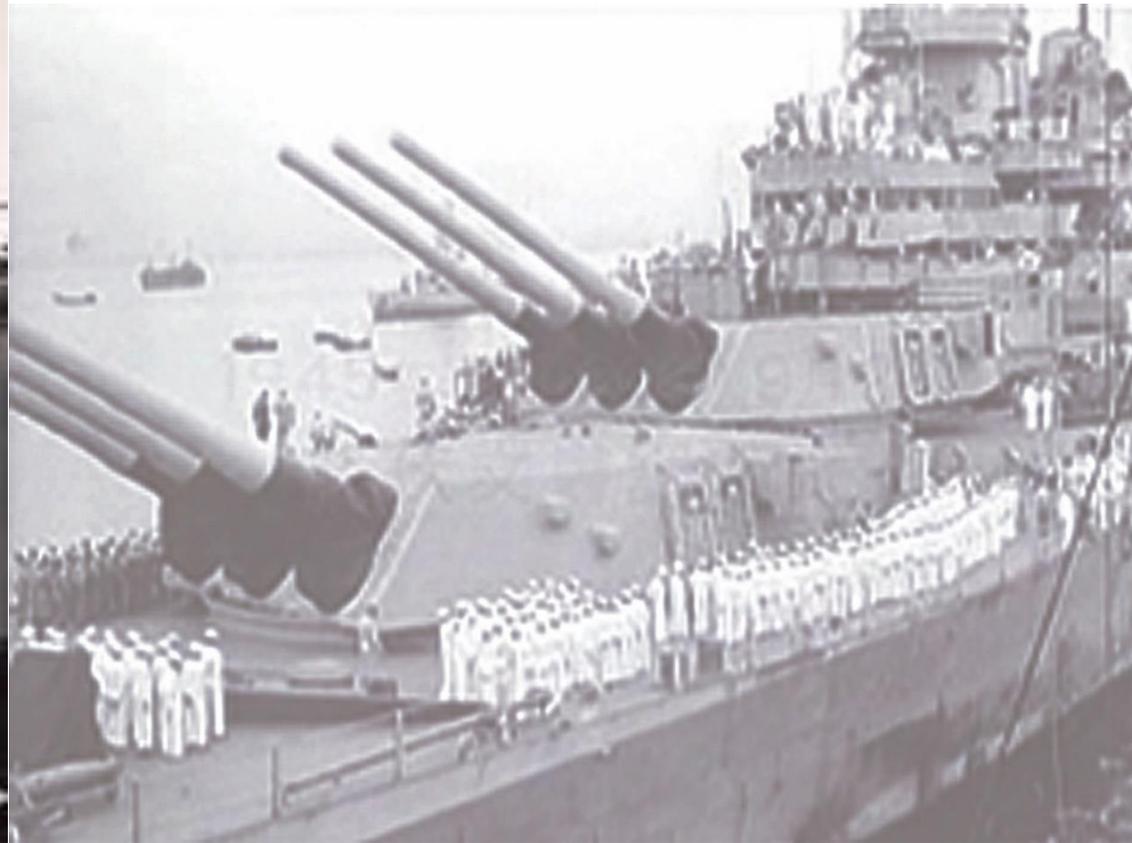
フィリピン上陸作戦

降伏文書に署名する連合国側・マッカーサー元帥 トーマス時雄坂本はマッカーサーの通訳として活躍



坂本氏は1970年退役まで18年間軍務につき
朝鮮戦争、ベトナム戦争にも参戦

1945年9月2日
戦艦ミズーリ号艦上での降伏文書調印式に臨む

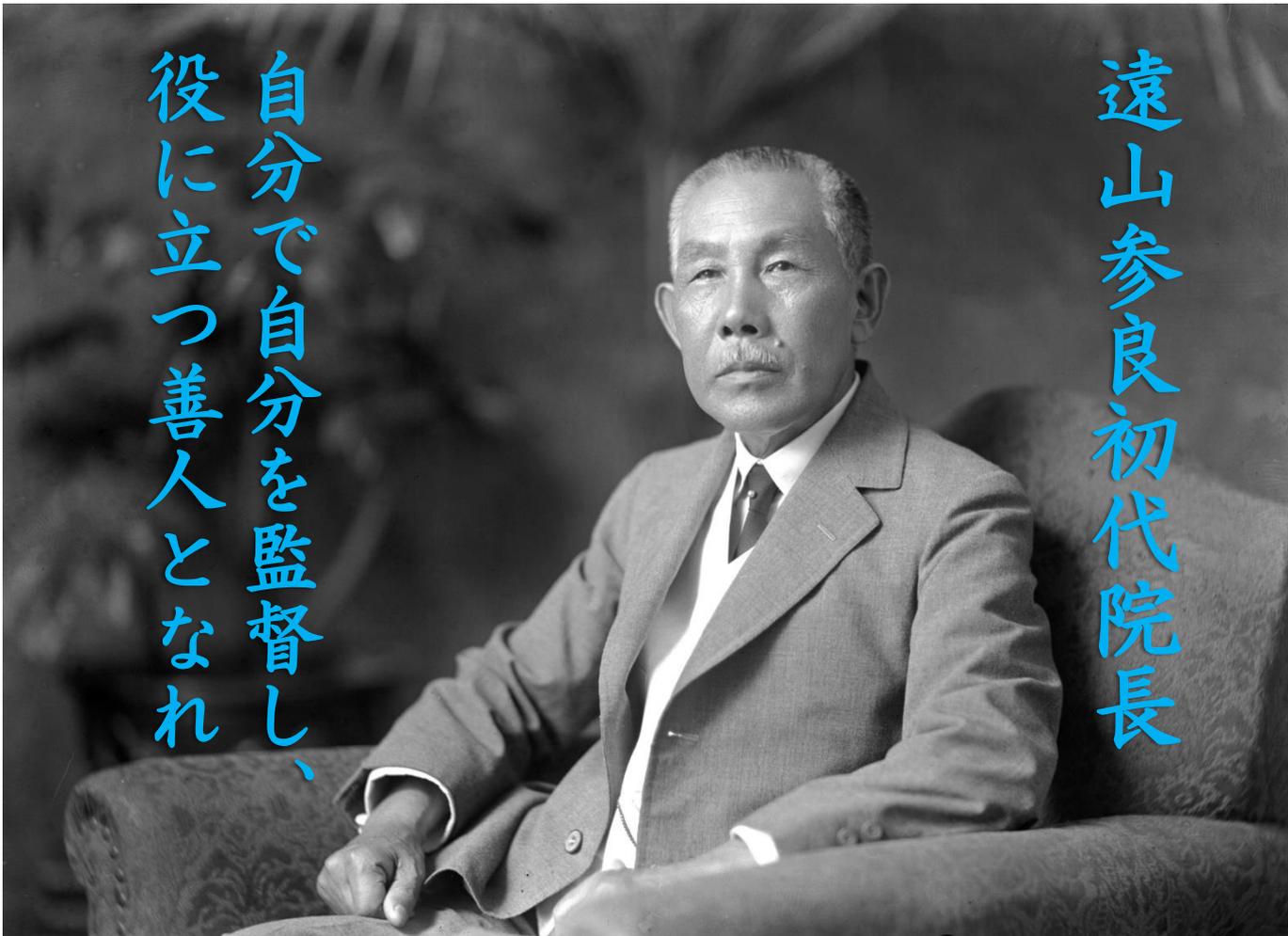


和田隆太郎：日本海軍の諜報通信・特信班に従事

降伏文書調印式に臨む日本側全権 重光葵外務大臣（背後に和田隆太郎か）



降伏文書調印は「不名誉の終着点ではなく、
再生の出発点である」（重光外務大臣）



遠山参良初代院長

自分で自分を監督し、
役に立つ善人となれ

ウクライナに平和を ヘルソン奪還

